

平成16年度第2回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成17年3月17日(木)
午後3時00分～午後4時30分
- 2 開催場所 宇都宮市教育センター (5階・503会議室)
- 3 出席者氏名 17名
阿久津委員長, 小林(睦男)副委員長, 齋藤副委員長 若林委員,
小林(幸正)委員, 増淵委員, 伴委員 廣田委員, 橋本委員,
四宮委員, 三村委員, 鶴見委員, 石原委員, 梅園委員, 渡辺委員,
塚田委員, 藤井委員
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者の数 0名
- 6 議事
 - (1) 報告事項
 - ア 平成16年度全国社会教育研究大会について
 - イ 平成17年宇都宮市成人式の状況について
 - ウ 新しい学校開放の仕組みづくりについて
 - (2) 協議事項
 - ア 平成17年度社会教育の基本方針及び重点事業について
 - イ 平成17年度文化行政の基本方針及び重点事業について
 - ウ 平成17年度社会教育関係団体に対する補助について
- 7 発言の要旨

阿久津委員長

会議次第に基づき, 議事を進めて参りたいと思います。
まず, 報告事項ですが, 平成16年度全国社会教育研究大会の概要について, 事務局から説明をし, 続いて大会に参加された3名の委員さんから, 感想などをご報告いただきたいと思います。では, 大会の概要について, 事務局から説明をお願い致します。

(事務局説明)

鶴見委員

私の参加しました第2部会は、「学社連携，融合と青少年教育」という事で，研究討議の視点は，「望ましい人作り」がテーマでした。

昭和町の通学合宿は，本市が行っている，地区内家庭にホームステイをする事業を更に展開させて，効果を上げているようでした。印象に残りましたのは，全体討議の中で，福岡県の委員の方が，昭和59年から20年間通学合宿を行って，実施件数が，今では，60を超えているということです。しかも，合宿所を作って，継続して行っている，とお話して下さいました。その事業の中で，「欠損体験」や「過重体験」ということを実感されたそうです。どういうことかと申しますと，欠損体験とは，人との交流体験が少ないこと，過重体験とは，ゲームとか機器を使って遊ぶ環境に育っていること，これらが問題である，とおっしゃっておられました。

家庭の中に閉じ込めてしまう教育は，マイナスです。今の子ども達に欠けている事が，3つあるとおっしゃっていました。その1つが，生産体験（働くという事）。2つめに，やって良い事，悪い事の判断ができない。3つめが，人とともに暮らす苦しみと喜びの体験が少ない。これらの問題に対し，大変貴重な事を実践されている，と思いました。

四宮委員

私は，「生涯学習とまちづくり」ということで，生涯学習の推進による地域社会づくりについて聞いてまいりました。ああ，良い話を聞いたなあ，と思いましたが，5ヶ月もしますと，薄れてきまして，もう少し早い時期に報告が出来れば，と思います。

2つ話があります。静岡県菊川町の内田という所の「名所と人物の百選」ということで，郷土の素晴らしい所を地域住民が選び，そこで，郷土愛を活かした，地域の活動を進めています。子ども達にも地元の郷土を分かりやすく知らせることができるわけです。ただこの菊川町という所は，人口が33,000人位で，内田は，その内の3,000人位。都会には無い人間関係があるからこそ，できるのかなと思いました。

それから，おやじクラブという活動がありまして，菊川町の中の複合地区で，ここは，いわゆるよそからきたサラリーマン世帯，33,000人の中の約33%にあたる，約10,000人の人がいて，結構地域としては，大きい地域となるわけですが，その中で，時代の流れの早い今こそ，おやじパワーが地域や家庭で必要になっている。そこで有志による会を作ろうということになったわけです。年代層は30代～70代で，発足時は，14人位で始まった。活動目標は3つありまして，

- 1．おやじ同士のコミュニケーションを図ろう。
- 2．おやじ自身の視野を広めよう。
- 3．おやじならではの活動をしよう。

そして，「主役は，子ども達である。子ども達は，宝物である。しかし，王

様ではない。」という事を合言葉にしています。具体的にどんなことをするのかというと、おやじの持っているノウハウで、例えば釣り好きな人は、海に連れて行って、釣りを教える。あるいはスキーの好きな人は、スキーを教える、などの体験活動をし、月1回位定例会をしている。仕事は、サラリーマンのほか、農業の人など、様々な職業の人が集まっており、いろいろなイベントの裏方のスタッフもやっている。そのようにして、地域づくりを行っているわけです。

もうひとつは、群馬県神田町の「ちいさな石垣」という農村地帯で、段々畑で蕎麦の栽培をしているが、やはり高齢化・過疎化が進んでいる。ここでは、町おこしという事で、年間10,000円で、蕎麦の栽培オーナーを募り、種まきから蕎麦打ちまで体験してもらい、地域の活性化を図っている。誰かにリードされてやってきたのでは無く、地域自ら年何回も会議を行って、様々な社会教育問題に取り組んでいるということです。

こうしてみますと、宇都宮市は45万人の都市でありながら、社会教育委員の会議が年2回というのは、いかがなものか。私達、社会教育委員の役割として、何をしていくべきかという事を、課題として考えた次第であります。

(小倉委員欠席、齋藤副委員長より報告)

齋藤副委員長

第46回となる全国大会で、このテーマが示された背景には、社会教育に対する鬱積した不満のようなものが、あるわけです。私が、やるなら原点復帰だよ、と言いましたら、こういうテーマを掲げてくれました。

井内 慶次郎さんという元文部省次官が、50年位前の思い出を交えながら、基調講演をされたわけですが、ポイントはこの話の中で、戦後社会教育をこれから推進していくのには、どうすれば、良いものかと東京大学教授の社会学者に相談しましたら、3つ重要な事がある、と教えられた。

1. 社会教育とは、社会生活そのものだということ。
2. 社会教育は、教えるものと、教わるものとが同じ立場に立って行うものであるということ。
3. 社会教育は、多くの人がやらなくてはいけない教育であり、一部の人のみだけが、満足しては駄目。全員参加型の教育であるということ。

以上の事を聞いて、井内さんは、目からうろこが落ちる思いになったんでしょう。現在、日本の教育政策のポイントは、生涯学習推進といわれているのに、井内さんは、生涯学習とは、浮ついた勉強だな、と思ったそうです。元官僚がそのように言われるのです。私は、高級官僚が極めて客観的な意見を言われることに、感心いたしました。

社会教育とは、生涯学習とは違う。社会教育は、教育の実態から、生ま

れなくてはならない。社会教育とは、今、委員の発表にあったとおり、多くの人がご苦労されていますが、現実にはどうなっているのかと。学校帰りの子どもが、かどわかされるような、とんでもない社会になっている。これから先は、社会生活の現実を直視して、如何なる教育をも、考えなくてはいけない世の中であると。今日において、我々は生涯学習社会で勉強して、知識人になっているはずですが、社会生活においては、目茶目茶怪しい。現実を見ていかななくてはならないと感じたわけです。そう言う意味で原点復帰、もう一辺スタートの地点に戻って考えてみよう、というのが第46回全国社会教育研究大会のテーマでした。この精神が47、48回と続いていくなれば、社会教育に次第に大きな力となっていくのではないかと、というのが私の感想です。

阿久津委員長 どうもありがとうございました。何か報告について、ご質問ありますか。以上で宜しいでしょうか。

一同 異議なし

阿久津委員長 次に、平成17年宇都宮市成人式の状況について、の報告事項に移りたいと思います。

(事務局説明)

阿久津委員長 ただ今の報告で、何かご意見、ご質問ありますか。

鶴見委員 私も参加させていただいたのですが、挨拶とか、大変簡略化されていて、長引かず、(成人者が)我慢しなくてすむような配慮がされていたように思いました。

齋藤副委員長 我慢が、教育のはずなのですが。こういうご時世ですので、式の持ち方も、飛躍的に、極めて良く構成されたものであろうと思います。

阿久津委員長 その他、特にありませんでしょうか。

一同 異議なし

阿久津委員長 では次に、新しい学校開放の仕組みづくりについて、事務局の報告をお願いします。

(事務局説明)

阿久津委員長	ただいまの報告について、ご意見をお願いいたします。
四宮委員	学校と地域が連携することで、子ども達の安全確保に役立つ体制になってくれれば。そのような検討をお願いします。
三村委員	<p>昔の分館、今のコミセンの活用が、現在非常に難しい状況になっています。昨年、蕎麦の宅急便というボランティア団体が、蕎麦を置く場所がなくて、コミセンや学校を借りようと連絡をしたのですが、休みに入ってしまうので、駄目です、と簡単に断られてしまったそうです。そういったところをうまく、やっていただけないものかと。コミセンは今は教育委員会ではないが、生涯学習を考えていった時に、学校をもう少し使いやすくしていただきたい。</p> <p>また、現在の教室開放も、警備のことで、大変嫌がる方がいらっしゃる。何秒以内に入入りしないと、警報が鳴ってしまう、そういう警備なので、お年よりなどは使いづらい。この検討を是非、やっていただきたいと思います。</p>
伴委員	<p>現在検討中ということですが、この資料の中で、学校の役割が、一切、明記されていないということが、非常に気になっています。</p> <p>開放における学校の役割とは何なのか。目的にもある、地域と学校の協働とは何なのか。ただ単に施設を使えるというだけでは、学校としての役割が明確ではない。地域住民が主体となって、とありますが、これでは地域住民の活動であって、学校との協働ではなくなってしまうと思います。その辺を十分に検討して、さらに進めていただきたいと思います。</p>
塚田委員	この資料にもありますが、学校図書館の活用や指定管理者制度の問題など、これからの図書について、どういった展望があるのかお伺いしたい。また、移動図書館を利用して読み聞かせの活動を行っていた団体が、廃止できなくなってしまった、という話も聞いています。
生涯学習課長	私共が昨年7月に策定した「子ども読書活動推進計画」の中でも、学校図書館が読書活動推進に大きく資するものであると位置付けております。
市立図書館長	移動図書館の廃止と、読み聞かせ団体への対応といたしましては、団体貸し出し、という制度がございます。1回に500冊まで貸し出せる制度ですので、活動していた団体にはぜひこのような制度を活用していただけるよう、学校などを通じて呼びかけ、PRしているところです。

生涯学習課長	<p>指定管理者制度についてですが、これについては、現在、市立図書館、東図書館が並立体制で基幹的業務を担っております。蔵書の構成、図書の運営方針の作成などを各図書館で行っておりますが、例えば、将来、市立図書館を中央館化していくことなどにより、形の上では、その他の業務について、指定管理者制度の導入も十分考えられるのではないかと考えております。</p>
藤井委員	<p>老婆心ながら、お聞きしたい。現在開放している以上に開放した場合に、とあるが、それ以上であってもなくても、万が一の時の対策はどのように考えているのか。</p>
生涯学習課長	<p>日本全国にそういった事件が多くなっており、事業を行う場合の安全対策として、安全指導員が配置できなくては、当然、開放もできない、と考えております。既に開放されている部分には、センサーや、シャッターなどで、防犯対策が確保されておりますが、さらに開放を拡大するという仕組みづくりの検討の中で、安全確保は、最大の課題と捉えております。</p>
阿久津委員長	<p>この件につきましては、以上で宜しいでしょうか。</p>
一同	<p>異議なし</p>
阿久津委員長	<p>次に、協議事項の、平成17年度社会教育委員の基本方針及び重点事業についてと、平成17年度文化行政の基本方針及び重点事業については、関連がありますので、一括して議題といたします。事務局から、説明をお願いします。</p>
	<p>(事務局説明)</p>
四宮委員	<p>市民大学の件ですが、参加する人数や年代層はどういったものでしょうか。60代などの人達は、時間がある人達。そうでなくて、サラリーマンなど、なかなか、時間が取れない人達が受講できる状況にあるのか、何か対策はされているのでしょうか。</p>
中央生涯学習センター所長	<p>市民大学の充実という面から、夜間開催も積極的に行っております。</p>
小林副委員長	<p>ジャズのまちづくりについて、伺いたい。演奏者の方にお話を聞くと、発表の場について、市役所や駅の構内でもできるでしょうし、小学校やP</p>

TAからの依頼など、いくらでも引き受けますよ、とおっしゃるわけです。市による登録制度や、演奏の場の割り振りはできないのでしょうか。また、土日や祭日における演奏会の開催など、特に観光との連携が不十分なのではないでしょうか。

文化課長

連携が不十分だと、ご指摘を受けましたが、私共といたしましては、商業観光課、文化課、都心部活性化と三位一体でやっているつもりであります。ジャズのまちづくりの事業につきましては、商工会議所、青年会議所、まちづくり推進機構、コンベンションビューロー等を含めた連携の中で、進めております。ただ、いつでも聞けるかという問題では、課題が多いと思います。先ほどのお話にもありましたが、JR宇都宮駅に話をしまして、3月から10月まで、駅内で1か月に1回コンサートを行う予定です。シティホールコンサートでも、年1回ですが、ジャズのコンサートを行っております。また、ご存知かと思いますが、市役所の始業終業のベルは、ナベサダの曲が流れております。

発表の場としては、5月に予定しております宇都宮ストリートギグにおいて、昨年は50団体・500人でしたが、今年は90団体を越えた申し込みがあり、発表の場として、多くの方々から期待されています。

観光客については、飲食店で生の演奏を聴かせるジャズ協会をつくり、PR活動をしています。定期的に演奏をしている店については、何曜日にとこの店といった、ご案内をさせていただいております。

この他、ジャズのまち委員会では、演奏する方に登録していただいて、派遣も行っておりますが、ただいまのようにご指摘を受けましたことは、PR活動がまだまだ不十分なのかな、と感じている所でございます。ジャズのまち宇都宮が定着するように、商工団体、市民団体、演奏団体と、連携を深めまして、頑張っていきたいと思っております。

小林副委員長

世界的なジャズの大会ができる位の意気込みを持ってやってください。

鶴見委員

社会教育の重点事業のうち、家庭教育支援の充実の中で、幼児と親の子育て広場、家庭教育学級、が取り上げられていますが、現在、子育て広場では、年齢制限がありません。年齢に幅があるので、運営していく内容が非常に広範囲で難しく、その結果サロンの要素が強くなっています。

年齢を絞ると、年齢に相応しい内容が充実できますが、そのような予定はないのですか。

中央生涯学習センター所長

一定年齢の親子教室を、子育て広場と同じくらいの回数を維持して実施していく予定です。

鶴見委員	<p>ありがとうございます。もう1点ですが、ボランティアによる講座の企画運営とは、どのような事を想定しているのでしょうか。</p> <p>前項でも質問しました幼児の教室で、企画、運営の部分について、地域の人達の協力を得るなどということは、お考えになってないのでしょうか。例えば、子育て広場など、年齢の違った人たちが集まっている所に、現在、不定期に地域の民生委員、中学生達においていただいて、地域の人達と顔見知りになってもらっていますが、企画の段階から、そういう人達も取りこんでいければ、より効果的ではないかと考えているのですが。</p>
中央生涯学習センター所長	<p>平成13年度から生涯学習ボランティアの養成を行っていますが、今のところ、ご提案のような状況にはまだ至っておりません。</p>
鶴見委員	<p>生涯学習指導員による学習相談とはどういうものなのか、お聞きしたい。</p>
中央生涯学習センター所長	<p>こういう勉強をしたいのだけれどもどこで学ぶ機会があるか、また講師を紹介してもらえないか、などのご相談に対し、マナビスなどを活用しながら、センター受講生のみならず、あらゆる市民の方へ対応するものです。</p>
鶴見委員	<p>わかりました。</p>
阿久津委員長	<p>次の議案に入ってよろしいでしょうか。</p>
一同	<p>異議なし</p>
阿久津委員長	<p>それでは、続いての協議事項、平成17年度社会教育関係団体に対する補助について、事務局説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">(事務局説明)</p>
伴委員	<p>第51回関東地区高等学校PTA連合会栃木県大会ですけれど、宇都宮市内で大会があるのですか。会場が宇都宮ならば、理解できます。</p>
事務局	<p>宇都宮市が会場になっています。</p>
阿久津委員長	<p>では、提案のとおりで、よろしいでしょうか。</p>
一同	<p>異議なし</p>

阿久津委員長 異議が無いようですので、次に、その他に移ります。事務局からありましたら、お願い致します。

(社教情報52号、社協連情報56号の配布について、事務局説明)

阿久津委員長 それでは、ほかには特に無いようですので、これをもちまして、終わりにしたいと思います。委員の皆さんには、長時間に渡り、熱心にご審議いただきありがとうございます。

また、平成16年度社会教育委員の会議は、本日を持ちまして、終了となります。ご協力、深く感謝いたします。誠にありがとうございました。